

大田市の文化活動 相生座関連の年表

(不明なことがたくさんあります。本、雑誌、パンフレット、記録などがあれば教えてください)

※新たな資料が見つければ修正追加していきます。ご協力を。

西暦	和暦		
1873	明治 6	相生座、芝居小屋、演劇、舞台発表等に関する活動 このころ大田南村、岡の前に 天神劇場 があった。	地域や国の主な出来事など ・1月、円応寺に仮校舎を設け「玉成館」と称し、私塾・圭山 堂 学生や南宮、円応寺の手習い児童を入学させる。(「星霜」) ・7月、恒松与吉郎他、7名が寄付して 天神劇場 を修理し、南学 校を創立、「敬業舎」と称す
1974	明治 7		
1975	明治 8		・6月「敬業舎」を第149番大田小学校に改称 「玉成館」を第151番大田小学校に改称
1880	明治13		・両小学校を合併し 安濃郡公立大田小学校 と改称
1913	大正 2	<p>北八幡宮に薬師座、南八幡宮に南座という芝居小屋があり、毎年祭礼に3 日くらい地芝居などが行われ賑った。</p> <p>(お互いに稽古は秘密にして演技を競い合った。 出し物は浄瑠璃芝居から忠臣蔵や太閤記などが主だった。薬師座は大阪の道頓堀の劇場を見に行つて作られ、神社の境内にあったが後に三叉路付近に移された)</p>	<p>・明治21年、仁摩町に安井好尚が私立大國英和学校開設</p> <p>・明治22年、町村制により久利、松代、行恒、市原、佐摩の各村が合併邇摩郡久利村が誕生</p> <p>・明治36年、大森井戸神社前に邇摩郡立石東農学校開校</p> <p>明治36年、安濃郡立農学校設立認可、正蔵坊で授業、校地を才の埕に決め建築、38年落成式、大正12年県立大田農学校と改称、昭和14、大田家政女学校へ事務移管</p> <p>・明治44・10、大田小学校講堂、校舎一棟新築落成</p> <p>・松江電燈株式会社大田変電所を創立、大田町内に配電</p>

1913 大正 2 ・芝居小屋「相生座」建設。建設者・座主は杉岡興芸社の**杉岡福三郎氏**。

杉岡は本町の西楽寺の下に家があり会社を経営していた。(松尾崇

			二階席があり回り舞台や花道、せり上がりもあった。(和田さん談)
1914	大正 3		・日本、第一次世界大戦参加
1915	大正 4	銀山経営者が資金を出し 大森座 を建設300席、昭和39年解体	・小田―石見大田間鉄道開通
1916	大正 5		・浜田―大田間のバス運転開始・大田町立女子技芸学校創立
		・ 島村抱月・松井須磨子 の「 芸術座 」は4月から台湾、満州など大巡業を け、8月下旬から松江(8月21、22)、 出雲、大社、平田、木次 『復活』などを公演 相生座 でも上演しているが、大田に記録が残っていない。 (抱月の手紙に山陰の公演地名が記され、大田もある。抱月は7年1 1月15日スペイン風邪で死亡、須磨子は8年1月5日後を追って縊死	・ 大田町立女子技芸学校創立 ・川合へ電灯がつく
1917	大正 6		・5月15日、大田・仁摩間鉄道開通
1918	大正 9		・ 芸術座 は、 松江劇場、出雲阿国座、出雲今市偕楽座 で公演、 市中パレードは大反響だった。当日観劇した岡より子氏は「日本 海文学」7号に「若い日」という自伝小説に感動を記している。 ・第一次世界大戦終わる
1923	大正12	恒松安夫が下宿していた 岡本家(一平、かの子、太郎) が震災で 長久村の 恒松家へ避難 、翌年青山へ転居するまで大田で過ごした。	・ 県立大田中学校設立認可 、10年4月大田小で入学開校式
1930	昭和 5	久利の共栄座 建設、初興行で大いに賑わう。 (共栄座の建物は 大森座 を解体移築。昭和30年三瓶グリーンラン ンへ売却のため解体(久利風土記)より)	・関東大震災起こる 9月1日
1936	昭和11		・石見銀山は閉山となる
			・満州事変起こる ・・・5・15事件起こる
			・松江放送局開設
			・雪見で今、家がある場所は牛市場だった(巨勢晃一)
			・2・26事件起こる
1937	昭和12	・「 天勝一座 」 相生座 で公演 3月9日5時 「菜洗橋は板橋で、上流に堰があり本流から水路に水を取って流し相 橋のもとに直径6メートルの水車を回していた。本流は水量が少なく 菜洗橋との間の広い川原で毎年4月に開催された 草競馬 が行われてい	・日中戦争始まる ・・・国民総動員令発布
			・刺鹿村、羽根西村が合併して久手町になる
			大田中学校、全国中学野球大会で甲子園へ出場
			県立大田農学校34期で廃止

			<p>たが、この頃中止になった。大田には馬車屋が約70軒あり、約80頭の馬が参加したが、戦争のため軍部が馬を買い上げたため開催できなくなった。連合運動会もよくこの川原で行われた。、奥野水道の場所は 大田で最初の警察署だった(波多野紅秋氏談)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農林省畜産試験場中国支場川合に開場。 ・第二次世界大戦始まる ・この年相生橋がコンクリートになった。(波多野紅秋)
1938	昭和13			<ul style="list-style-type: none"> ・日独伊三国同盟調印
1939	昭和14			<ul style="list-style-type: none"> ・8月国民徴用令公布 ・9月第二次世界大戦始まる ・県立大田農学校34期で廃止 ・大政翼賛会発会
1940	昭和15		<ul style="list-style-type: none"> ・石井獺、バレエ公演(この頃か) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大田小学校校歌披露「紅薄き…」 ・太平洋戦争起こる。米英に対し宣戦布告
1941	昭和16		<ul style="list-style-type: none"> ・浪曲師、三波春夫公演(この頃か) 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧制大田中学第4回選抜甲子園大会出場 ・県立大田家政女学校は大田高等女学校に組織変更
1942	昭和17			<ul style="list-style-type: none"> ・学徒出動命令出る
1943	昭和18		<ul style="list-style-type: none"> 馬路の芝居小屋「笹屋」が水害で流出 (戦後、波田野酒店が酒蔵を改造して小屋常設、映画も上映) 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月、大水害 雨量219ミリ、被害甚大 ・9月、石見地方台風水害、被害甚大・波根湖干拓工事着工
1944	昭和19		<ul style="list-style-type: none"> 12月、恒松安夫、兄源吉の出征で慶応大学教授を辞し長久の自へ帰郷、農業に従事。恒松は岡本一平、かの子、長男太郎の家下宿し家事の世話なども任されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大田高等女学校呉海軍工廠へ動員令で出動
			<ul style="list-style-type: none"> ・大田文化協会(後に石東文化協会) 結成。演劇部門は若い人が集まり恒安夫を座長に、相生座や各地で公演した。協会には次のような会があった。 演劇、俳句、詩、バレエ、音楽グループ、短歌の会、本舞踊、政治座談会。それぞれ活発に活動した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポツダム宣言受諾、敗戦 ・大田中、大田女学校が陸軍病院分室となり、300人の原爆犠牲者収容、99人死亡 ・GHQの占領政策で雑誌、新聞などは検閲制度になる

1945	昭和20	疎開中の松竹映画経験者で作曲家、 越谷達之助 や スター水上令子 も指導に当たり、参加した。 ※この頃の活発な文化活動を故白石昭臣氏は「 大田のルネッサンス 」と「大田高校60年史」(1254頁あり)で詳しく記録紹介	*詩、俳句、短歌などの文学活動の記録は、別に年表作成
1946	昭和21	<ul style="list-style-type: none"> ・5月 三瓶座、大田高女講堂で演劇上演。 旧制中学、高女の生徒も参加。(劇名など不明) ・9月 「三瓶座」第一回公演 『修善寺物語』『父帰る』を相生座で公演 ・10月27日、文化協会舞踊部の研究会「温習会」第一回公演 ・第一回音楽会は平岡養一の木琴演奏で超満員。 ・プロのダンサー東勇作、相生座で公演。「初めてバレエを見た」(石田種生氏「いろいろな旅芝居一座が来て上演した。都会は食糧事情が悪かったも理由。農作業を手伝ってもらった」ともある)(柳浦末子氏談) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法公布 ・三瓶山麓に開拓団入植 ・紙が手に入らない時代で、同人誌発行に苦労した ・2月大田市文化協会誕生 (後に石東文化協会に改称「恒松安夫追悼録年表」)
1947	昭和22	<ul style="list-style-type: none"> ・1月28日、三瓶座第二回公演「心なき港」「花嫁読本」。 「父帰る」は出雲でも公演 「三瓶座の演劇の練習は、仁万屋や恒松安夫の土蔵の二階、6畳の居などで行われた。巡業はオート三輪など使った。収益より持ち出し多かった」(「恒松安夫追悼録」) ・石田種生、旧制大田中学を卒業、慶応大学進学、プロとしてバレエの道へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・島根巡幸中の天皇陛下、大田駅に5分下車 ・4月恒松安夫(76歳)県議に当選、県議会議長に就任 ・大田町立大田中学校創設、大田小の西側校舎を使用 ・学制改革により、県立大田高、大田女子高開設
1948	昭和23	<ul style="list-style-type: none"> 「相生座は、このころには2階へ上がる階段もシシシ鳴って老朽化しているという印象があった」(柳浦末子さん談) ・三瓶座は、石東文化協会から独立。 三瓶座の上演や練習には恒松夫人の幸も参加した。主なメンバー。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月、大田中学校が県立大田高校へ

1949	昭和24	<ul style="list-style-type: none"> 石崎幸、田中通、尾添修二などの教員や、石田四郎、石田アケミ、川崎周春、石賀圭太郎、石田アキコ、財間春江、楳野正也、中島勘助、佐々木富美男、松本康博、巨勢晃一、木村近夫、清水美由紀など。(「大田高60年史」より) 『修善寺物語』にしんば(出演者全員写真あり)『父帰る』など公演。 大田高校の藤川恒信(10年間顧問)も途中から積極的に関わった。 広瀬誠、島田誠三郎芝居を上演し大好評 	<ul style="list-style-type: none"> 大田高校、男女両校を統一、男女共学へ
1950	昭和25	<ul style="list-style-type: none"> 長谷川一夫公演 町内から番傘や小物を借りた。 大田高演劇部顧問、藤川恒信の指導で、『夕鶴』なよたけ『風車小屋だより』公演、 勝部義夫、藤原俊彦など大田高へ入学、演劇部で活躍、藤原は広大医学部 <p>勝部は日大芸術学部へ進学後、映画、舞台俳優として活躍した</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝鮮戦争はじまる 大田電報電話局開設 大田高校に定時制夜間部設置(41年募集停止) サンフランシスコ平和会議
1951	昭和26	<ul style="list-style-type: none"> 26年以降は田中通が脚本を書き演出もした(巨勢氏談) 大田高演劇部『おさの音』『岩姫』を相生座で公演 福田敏一が米子東高から邇摩高校へ転任し演劇部を担当、活発な動が始まった。町の劇場で昼は生徒、夜は町民対象で深夜まで4〜5本上演した。福田は35年大田高へ。演劇、弓道を担当した。 	<ul style="list-style-type: none"> 波根湖の干拓工事完工 国立大田療養所発足 県高校文化連盟発足、大田高で結成大会、15校参加
1952	昭和27	<ul style="list-style-type: none"> 大田町制50周年記念で、三瓶座『花咲く港』を公演(10月)(写真あり) 浪曲師、村田英雄、公演(この頃か?) 大田高演劇部『赤いバラ』『彦市ばなし』を相生座で公演 	<ul style="list-style-type: none"> 小田酒店の酒蔵(坂根印刷の隣り)に木の椅子を置いて映画館にしていた。トヨペット初代社長勝部さんだったか(85歳女性)
1953	昭和28	<ul style="list-style-type: none"> 三瓶座の劇は、青年団活動に移行するようになった(勝部義夫氏記述) 大田高演劇部『炎の人』を相生座で公演 	<ul style="list-style-type: none"> 自衛隊発足

1954	昭和29	<ul style="list-style-type: none"> ・旅芝居一座・「だるま劇団」が相生座の管理をしていた(いつからか不明) (だるま劇団公演の時にはふれ太鼓を叩いて町中で宣伝していた) チンドン屋もやっていた。加来重雄は3歳で舞台に出たという ・敬老会で『蛇が出る』を上演、9月15日(写真あり) ・映画『24の瞳』を大田小学校児童が鑑賞 ・波根小学校から相生座へ映画を観にきた(この頃か)、大田一中もきた。 邇摩高演劇部はこの年まで仁万座や朝日座で昼夜公演した 		<ul style="list-style-type: none"> ・1月1日、大田市誕生(8ヶ町村) ・4月1日仁摩町村合併 ・日本、国際連合に加盟 ・大田市民球場完成
1955	昭和30	邇摩高体育館に暗幕設備でき、体育館で公演するようになった。		<ul style="list-style-type: none"> ・代官山児童遊園地設置
1956	昭和31	<ul style="list-style-type: none"> ・石田種生、バレエ『浮布物語』を創作 		<ul style="list-style-type: none"> ・大田市立図書館開館(和田哲夫氏の寄付)
1957	昭和32	<ul style="list-style-type: none"> ・映画『灯台守』を大田小学校児童が鑑賞 ・三瓶座は『麦踏み』を上演。最後の公演になった。 ・この頃、相生座は解体され、その後、跡地に職業安定所が建てられた 		<ul style="list-style-type: none"> ・大田小学校屋内体操場新築落成 ・昭和38年、大田市民会館竣工
		<ul style="list-style-type: none"> ・「劇団の主人が他界、奥様が管理していたがうまくいかず手放された。劇団の古海さん、加藤さん夫妻など大田に定住した人もある。最後頃には相生 座も寂れ、だるま劇団を観劇する人も少なくなり、トイレのにおいがする場所というイメージがあった」(柳浦末子さん) ・「素人演芸で赤城の子守歌をみた。映画の上映や歌合戦もあり、鳥井や羽根からも歌自慢がきた。竹腰の隣りの明治屋楽器店で歌の練習をして、相生座で歌っていた。相生座は芝居小屋で家族総出でいくところというイメージがあった。(85歳女性談) ・「相生座の川土手側には風呂屋があり三瓶川の水路から水車を上げていた。前には西側屋という料理屋、相生座の通りにはおでん屋、うどん屋、甘味所、豆腐屋、散髪屋、日進堂、下駄屋(葉山)、もちや(雑貨店)、福屋階行堂百貨店などがあった。(松尾崇氏談) ・「踊りをやっていたので、一緒に舞台へ出たこともある。だるま劇団へ入団しなかつたかと誘われたが、迷った末、約束の場所へ行かなかつた。劇団からカツラをいただいて、今も保存している」(松原政子さん昭和9年生まれ。踊りの振り付け書きノート数冊保存) <p>※ まだ公民館や市民会館がなく、学校の講堂も芝居や演芸などには使えない時代、唯一の芝居や演芸など発表し楽しむ場として、日本の各町村に芝居小屋がありました。相生座もその一つです。多くの市民に親しまれた相生座は時代の流れの中で、静かに幕を閉じました。※当時の原文や文書などはほとんど見当たりません。そのため上演年月日などは不正確なものがあるかもしれません。記録の大切さを改めて思います(20180618 文責 洲洪)</p>		

